

## 小学4年1組 音楽科学習指導案

指導者 神門洋子

6拍子の特徴を感じ取り、曲想に合った歌唱表現を学級全体で学び合う活動をさせたことは、拍によって表現することを楽しみ、6拍子のよさを生かした歌唱表現に高めていくことに有効であったか。

1 題材名 6拍子によって歌ったり聴いたりしよう

### 2 授業の構想

(1)

T：このグループはどんな工夫をして演奏しましたか？ C1：最初のリズム8分音符や16分音符を使ってリズムをかえていました。 T：リズムを工夫していたね。他にありましたか？ C2：後半は一人ひとりが順番にずれてたたきました。 T：一人が2拍ずつ演奏して4人できれないようにリレー奏をしていたね。他にありましたか？ C3：最後は4人全員でドをたたいていました。 T：終わり方を工夫していたね。
--

これは「グループで工夫して木琴を演奏しよう～あわてんぼうの歌～」の学習で、あるグループの中間発表を聴いた後、そのグループの工夫を話し合う場面である。工夫している場面では、自分たちの思いを話し合いながら自主的に工夫している姿が見られた。発表の姿も堂々としていた。他の児童は発表を聴き、友だちの演奏から「リズム」や「演奏順」や「終わり方」のおもしろさに気づき、発言した。これらの音楽的キーワードについては、子どもが発した「言葉」を生かすことで、学級全体の〔共通事項〕として根付かせ、音楽を形づくっている要素を教師が価値付けていく。しかし聴き取りについては個人差があるので、もう一度グループの演奏を聴き、聴き取りを深めていく。このように音楽では聴き取ったり感じ取ったりしたことをもう一度演奏して確認することで音楽的感受を深めていくことを大切にしている。また、友だちの演奏を聴くことで「自分ならこうしたい。」という自己決定の場となり、さらに次の練習へと意欲や工夫が高まるサイクルを大切にしている。このように本学級の子どもは、音楽のよさやおもしろさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり聴いたりする力を深め合おうとする姿が見られる。

音楽科では、表現及び鑑賞のすべての活動の中で、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みの働きが生み出すよさや楽しさを感じ取るとともに、思いや意図を持って表現したり味わって聴いたりすることを大切にしている。このような学習を積み重ね、どの子も自分なりの思いをもち、自分でできたときに表現する喜びを感じ、さらによりよい表現を求めていく活動を通して、みんなで音楽をつくりあげる楽しさを感じたり、音楽的な能力が高まっていける子どもを育てていきたい。

(2) 本題材の「6拍子によって歌ったり聴いたりしよう」については、新学習指導要領の共通事項で以下のように明記されている。

共通事項

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 音楽を形づくっている要素のうち次の(ア) を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。

(ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、音階や調、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴づけている要素

これらをふまえて、「6拍子によって歌ったり聴いたりしよう」の学習のねらいは、6拍子の曲想や

リズムのおもしろさを感じ取ること、拍の流れにのって、曲想にあった歌唱表現ができることの2つである。

児童はこれまで、主に2拍子、3拍子、4拍子の楽曲にふれてきた。ここでは、これまでの経験を生かして、8分の6拍子に出会い楽曲を聴いたり歌ったりすることで、8分の6拍子のよさや曲想を感じ取ったり、拍の流れにのって演奏する姿をめざしている。

今回の学習指導要領の改訂において、改善の基本方針に思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成することと示された。これは指導しようとする内容を単なる知識として理解させようとしたり、技能の機械的な訓練のみを行ったりすることではなく、児童が思いや意図をもって表現したり、想像力を働かせながら音楽を聴いたりするなど、児童一人ひとりが感性を豊かに働かせながら主体的に活動に取り組む態度を大事にし、楽しい音楽活動を展開していく必要がある。そして「思いや意図をもって表現する力」と「味わって聴いたりする力」をむすびつけるものに〔共通事項〕がある。共通事項とは、表現及び鑑賞すべての活動において、共通に指導する内容（音楽を形づくっている要素や音符、休符、記号や音楽にかかわる用語）のことである。共通事項の指導の際では、歌唱や器楽、鑑賞の活動において、取り扱う楽曲の曲想を感じ取り表現したり、鑑賞したりすることが大切となる。また、児童が、音符、休符、記号や音楽にかかわる用語を含んだ楽譜を読むことの必要性を感じ取ることができるよう指導することが大切である。

本題材では、歌唱では「歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと」、鑑賞では「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気づくこと」が関連する。児童は歌唱の活動により、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って、曲想にふさわしい表現を工夫することが求められている。また「思いや意図をもって歌う」とは、表現に対する自分の明確な考えや願い、意図を持って歌うことを意味している。

鑑賞の活動では、児童が楽曲の特徴や演奏のよさに気づくようにすることが求められている。そのため、楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを教師や友達などに伝えようとする気持ちを育てていくことや、一人ひとりの感じ方のよさに気づいて認め合うことが重要である。

**(3)** 本題材では、8分の6拍子の特徴を感じ取ったり、一人ひとりが自分の思いをもって歌詞の内容や曲想に合う歌い方を工夫して表現したりする姿をめざして、8分の6拍子のフレーズの拍子が違うとどう感じ方が変わるか感受したり、曲の山に向かう歌唱表現について話し合ったりして8分の6拍子の音楽のよさや面白さを分かち合っていく授業を展開していきたいと考えた。

そこで、題材を以下のように構成する。第1次は、グリーグ作曲「ペールギュント」第1組曲から「朝の気分」を聴き、主な旋律を2拍子系と3拍子系の違いで生み出される拍感に気づかせたい。そして大きな2拍子の流れにのって指揮をしたり体を揺らしたりして8分の6拍子のこちよさを感じさせたい。

第2次ではグループや全体で「風のメロディー」を工夫して歌っていく。曲の山にさしかかる「おくりもの」と「かぜ〜」のフレーズの歌い方に着目し、反復や強弱を感じ取って工夫していく。自分の思いを楽譜に書いていき、同じイメージの児童でグループをつくり、さらに工夫を追求していかせる。自分たちのグループの「風のメロディー」のイメージに近づくために、強弱や速さや音色を工夫させたい。また互いによく聴いて演奏し、強弱や速さや音色の変化などを工夫させたい。

本時では、前時にグループで工夫した「風のメロディー」を中間発表をし、みんなで聴き合う場を設定し、工夫した意図を考えながら聴かせたい。聴く視点として「曲の山」を挙げ、各グループの共通の表現を感じ取っていく。クレッシェンドや息つぎが予想されるが、それはなぜその工夫をしているのか全体で考え学び合っていく。クレッシェンドや息つぎの工夫を全体で表現し、確かな表現にしていく中で学級としての曲の山の表現を見いだしていきたい。曲の山の表現を追求したことをきっかけに、全体はどう表現していくのか、さらに新たな音楽表現へと追求していく意欲へつなげていけるようにしていきたい。

### 3 展開計画（全6時間 本時④／6）

次	主な活動活動	時	具体的な学習活動
1	「朝の気分」を聴き、8分の6拍子の特徴を感じ取ろう	1	◇始めのフレーズを提示し、2拍子系と3拍子系で歌ったりリコーダーで演奏してみても、どちら朝の音楽か感じ取ったことを発表する。 ・8分の6拍子について知る。 ・大きな2拍子にとらえて楽曲を聴くことができる。
2	グループで「風のメロディー」を工夫して歌おう	2	・「風のメロディー」を歌詞唱する。 ・ターンタとタタタのリズムに気をつけて歌う。 ・どんな思いで歌いたい自分の思いをもつ。
		3 ～ ④	・歌詞の内容、曲想にふさわしい歌唱表現を考える。 ・工夫していくグループ(強弱・速さ・やさしく)に分かれて拍の流れを感じ取りながら、よりよい歌になるように話し合いながら練習をする。 ◇中間発表を聴き、友だちの表現のよさを見つけ、みんなで曲の山の歌唱表現を工夫していく。
		5 ～ 6	・グループで考えた音楽表現を発表し、一番気に入った歌い方を見つける。 ◇一番気に入った歌い方のグループの表現をまねて歌い、そのよさを伝え合いながら、全員で歌唱表現を高めていく。

### 4 「学び合い」における思考力・判断力・表現力の評価

次	時	学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					A	B	C
1	1	「朝の気分」を聴き、6拍子のよさを感じ取っている。	大きな2拍子の流れによって指揮をしながら楽曲のよさを味わうことができる。	ワークシート 演奏 発言	2拍子系と3拍子系の違いで生み出される拍感に気づき、感じ取ったことを2つ以上の要素を入れて記述したり発言している。	2拍子系と3拍子系の違いで生み出される拍感に気づき、感じ取ったことを1つの要素を入れて記述したり発言している。	楽曲に関心がもてず、楽曲の良さも聴き取ることができない。
2	2	「風のメロディー」を聴いたり歌ったりして、どのように歌いたい自分の思いをもつ。	体を揺らしたり、指揮をしたりして8分の6拍子を感じ取って、リズムの違いに興味・関心をもち、進んで歌おうとしている。	ワークシート 演奏 発言	曲の山をつくり出すクレッシェンドや曲の山を見つけ、どのように歌うか自分の思いを楽譜に書いたり、工夫して歌っている。	曲の山を見つけ、どのように歌うか自分の思いを楽譜に書いたり、工夫して歌っている。	曲の山をつくり出すクレッシェンドの必要性や曲の山を感じ取ることができず、どのように歌うか自分の思いがもてない。
	3 ～ ④	◇グループで「風のメロディー」を工夫して歌おう	強弱や速度などを捉え、「風のメロディー」のイメージや思いをもって歌い方を工夫している。	ワークシート 演奏 発言	「風のメロディー」の旋律、強弱、反復を聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取りながら、歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えをもつこと	「風のメロディー」の旋律、強弱、反復から1つを聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取りながら、歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考	「風のメロディー」の旋律、強弱、反復が聴き取れず、それらの働きが生み出す面白さを感じ取れず、歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考

				る。	えをもっている。	ができない。
5	旋律の感じや歌詞の雰囲気合う歌	曲想にふさわしい歌い方で表現できるように、呼吸や発音に気をつけて発表する。	ワークシート 演奏 発言	呼吸及び発音の仕方に気をつけて、曲想にふさわしい響きのある声で歌っている。	息継ぎの場所を守り、曲想にあった声で歌おうとしている。	息継ぎの場所が理解できず、楽曲にふさわしくない声で歌っている。
6	い方を工夫しよう					

## 5 本時の学習

### (1)ねらい

8分の6拍子の拍にのって歌詞と強弱の関係を感じ取りながら、「風のメロディー」の曲の山にふさわしい歌唱表現を工夫することができる。

### (2)展開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価(◎は学び合いのためのはたらきかけ)
<p>1. 自分たちで工夫した「風のメロディーを歌い、前時までの工夫を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・強弱をつけた。「おくりもの・かぜ」をどんどんおおきくして歌おう。</li> <li>・息つぎをして次のフレーズへいきおいをつなげる。</li> <li>・おくりものは「の」をクレッシェンドして「かぜ」につなげて歌おう。</li> </ul> <p>2. 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>曲の山にふさわしい表現は何かを感じ取って歌おう</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までに各グループで工夫して練習したことを確認し、学習課題を共通してもてるようにする。</li> </ul>
<p>3. グループの発表を聴き合い、感想をもったり、共に歌ったりして表現を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「かぜ」に向かってクレッシェンドしている。</li> <li>・「かぜ」の前で息つぎをしている。</li> <li>・「おくりもの・かぜ」をどんどん大きくして歌いたい。大きくてやさしい風にしたいから。</li> <li>・「おくりもの」の「の」でクレッシェンドしたい。「かぜ」を強くしたい。おくりものにやさしい気持ちを込めたいから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの曲の山の拡大楽譜を提示し共通する部分をキーワード(クレッシェンド・スラー・音色等)を記入したり見つけていくことで、各グループの歌い方の共通部分を明確にする。</li> <li>◎「気に入った歌い方はどれか」と問いかけ、クレッシェンドや息つぎをするとやさしさや強さなどの自分の風に対する願いが伝わることを確認する。</li> <li>・気に入った歌い方は4の1の歌い方として別の拡大楽譜にまとめ、視覚化していく。</li> </ul>
<p>4. 学習をふりかえり、本時の自分の歌について記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思いの高まりとともにクレッシェンドがあると気持ちよく歌えた。</li> <li>・曲の山は「かぜ」だけでなく「風のメロディー」だと思った。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>— 評価規準(音楽表現の創意工夫) —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・強弱や速度などを捉え、「風のメロディー」のイメージや思いをもって歌い方を工夫している。【評価方法 観察・つぶやき・歌唱表現】</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものふりかえりをもとに、強弱や速度などの工夫で曲の山がもりあがる表現になったことに気づくようにしていく。</li> </ul>